

隠居岳 668.8m 危急時対応実技講習会

滑落者の救助

一般登山道において滑落者の救助を実践

滑落者負傷なしの場合

1. 自力での登り返し可能
要救助必要なし
2. ロープ使用での登り返し可能
ロープを手がかりに登る
 - ・ロープにこぶを作成、手がかりに登る
 - ・フリクションノットでの登る
 - ・カラビナを使ったバックマン登高
 - ・クレムハンストによる
3. 自力での登り返し不可能
ロープによる確保での登り返し
 - ・登攀経験者による確保ロープ引上げ(1/2)によるレスキュー

滑落者負傷(上肢)の場合

1. 自力での登り返し不可能
ロープ引上げ(1/3)によるレスキュー

滑落者負傷(下肢)の場合

1. 自力での登り返し不可能
背負い搬送 + ロープ引上げ

捻挫・打撲・骨折におけるセルフレスキー

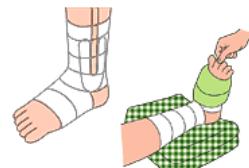
Rest(安静)



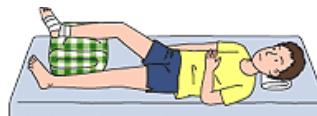
Ice(冷却)



Compression(圧迫)



Elevation(拳上)



応急処置の基本は、RIC E処置

捻挫の場合の固定

1. テーピングによる固定
2. 三角巾を使用した固定

日赤の救命講習等での受講をおすすめいたします。

搬出方法

1. 自力歩行可能
ストックでの松葉杖作成
2. 自力歩行不可
ザックによる搬送
雨具、ストック、ツエルトなどの併用

難所の通過(横断)

滑落すると事故につながるような危険箇所を通過する場合は、積極的なロープの活用を行う。そのため、一般登山であってもリーダーは、ロープワークの基本操作を習得しておく必要がある。また、結びを理解していなければ、セルフレスキーを行うことができない。

ツアー登山においても、ハーネス(または、スリング)、カラビナ等の装備を持参することを義務つけることも多くなってきている。

一般登山者においても、以下の装備を携行しておく事が望ましい。

メンバー

テープスリング 120cm 2本



環付カラビナ 2本

リーダー

補助ロープ 8ミリ(20m)